



人間科学講座 生命倫理学分野

医療者ではない視点からの 多角的な教養教育を展開



教授 藤野 美都子

皆さんこんにちは。最初に私たちの研究テーマについて紹介したいと思います。

末永恵子(講師)は、「日本の医学と植民地支配・戦争」を研究テーマとしており、植民地支配および戦争を背景に日本の医学はどのように展開したのかを歴史史料に依拠しながら考察しています。具体的には、中国大陸や東南アジアの人々に対して近代日本は医学を通してどのように関係したのか、その構造と特質を明らかにし、通史的な全体像を描くことを当面の目標としています。

福田俊章(准教授)の本来の専門はカントの倫理学で、ほぼ一貫して義務論的な倫理学(行為の倫理的評価はその帰結以外の点を見なければ出来ないとする立場)の有効性を見定めたいと思って研究を続けてきました。それに対する比較対称軸として、ホブズを初めとするヨーロッパ近代政治思想や功利主義に代表される帰結主義の倫理学(行為の評価はその帰結を評価することを通じてなされるとする立場)にも興味をもっています。

藤野美都子(教授)は、フランス憲法と社会保障法を対象とし、男女平等を推進する法制度や高福祉高負担を具現化する法制度を研究してきました。本学赴任後は、担当講義との関連を踏まえ、患者や医学研究の対象者の権利を立法により保障しようとするフランス医事法や生命倫理法を研究対象に加えました。研究に通底する社会的弱者の権利保障という観点から、震災後は、原子力政策のあり方にも関心を寄せています。

このようにスタッフの研究テーマは様々ですが、医療や医学研究の場において患者さんの人間としての尊厳が守られることを願って、私たちは協力しながら日々の教育・研究にたずさわっています。法学、倫理学、哲学、歴史学、思想史等の授業を「人間を育てる教養教育の一環として行うほか、医療者ではないスタッフの立場を活かし、生命倫理、医学セミナー、福島学、医療と法、臨床倫理等の授業を展開しています。

福島学では、毎年秋、医学部1年生全員が参加する学外見学会を催しています。ジョンソン・エンド・ジョンソン須賀川事業所や会津オリンパス会津工場を訪問(写真1、2)し、福島県が屈指の医療機器生産県であることを理解し、吉田富三記念館や野口英世記念館を訪れ、福島県ゆかりの医学者の功績を知る機会を提供しています。

2016年度から、医学部、看護学部の学生を対象に被災地学習会を行っています。これまでに川内村、双葉地方広域市町村圏組合消防本部、大熊町、南相馬原子力災害対策センター、東京電力福島第二原子力発電所を訪れました(写真3)。参加者が、本学で災害医療や放射線医学を学ぶ意義を確認し、福島の将来を考えるようになればと願っています。

あわせて、教育や広報に役立てる目的で、写真に掲げた冊子の執筆・作成も行っています。『福島県立医科大学の歴史(増補改訂版)』(2019年刊)は、末永が執筆し、本学医学部同窓会のご支援を得て刊行されました。『新聞にみる福島の医療』(2012年刊)は、スタッフ3人が執筆し、県内の高等教育機関と地域の諸団体との連携機関である「アカデミア・コンソーシアムふくしま(ACF)」の活動の一環として刊行されたものです(写真4)。ご一読いただければ幸いです。



写真1



写真2



写真3



写真4

写真1：福島学学外見学会
J&Jラボの見学
写真2：福島学学外見学会
会津オリンパスの見学

写真3：被災地学習会
福島第2原発4号機
原子炉格納容器内
写真4：講座で作成したブックレット